

# 彩菜栽

2015年  
8月

## 春に先駆け 長く楽しめるナバナ



春、にぎやかに咲く菜の花よりひと足早く、12cmほどの長さを切りそろえ大きく膨らんだつぼみを持つナバナが店頭に並びます。アブラナ科の菜類の花雷からいと若い茎、葉を共に食べる季節感あふれる野菜です。元は房州(千葉県南部)の特産で知ら

れていましたが、近年は、早生、晩生、

多分枝性、耐病性(根こぶ病など)

の品種改良も進み、晩秋から春先にか

けて長く、独特の苦味と柔らかかな

食感を楽しめます。土壌への適応性

は広く、重粘土から砂質土まで栽培

できますが、真冬に収穫するのです

から、できるだけ日当たりの良い場

所を選んで下さい。種まきの適期は

9月上旬から10月上旬です。9月初

めに種まきすると10月中旬ごろ花

芽を分化し、収穫始めは11月中旬ご

ろとなり、うまく管理すれば3月上

旬ごろまでに収穫し続けることが

できます。

畑は早めに苦土石灰を全面にま

き、よく耕しておき、元肥として良

質の完熟堆肥と油かす、化成肥料を

施しておくことが大切です。

せるよう心掛けます。

追肥は草丈が20cmほどに伸びた

ことから収穫期にかけて、15〜20日

ごとに3〜4回ほど行い、次々と良

い脇芽が伸び、大きな花雷が収穫で

きるように配慮します。

アブラナ科の野菜の共通の問題

ですが、生育中にアブラムシやコナ

ガなどの害虫の加害を受けやすい

ので、発生初期に薬剤散布して防ぎ

ます。収穫は途切れなく行われます

種まきは図のように、128穴の

セルトレイに、1穴当たり4〜5粒

まきとし、育つにつれて間引き、1

本仕立てとし、本場4〜5枚の苗に

育て上げ、畑に植え出すのが良法で

すが、畑にまき溝を作り、じかまき

して育てることもできます。いずれ

にしても、条間40〜50cm、株間30cm

ぐらいの粗植えにし、分枝を多く出

せるよう心掛けます。

ので、収穫との関係をよく考えて、

安全除根に努めましょう。育苗中や

生育前期の草丈の低い場合には、ト

ンネル状にネットやべた掛け資材

を被覆するのも良い方法です。

収穫は、花雷が大きく膨らみ、開

花直前ぐらいになったところに行い

ます。全体の茎の長さは10〜12cmが

適当です。短く切り過ぎると、後か

ら発生する花雷数は多くなります

が、細いものになりやすく、逆に長

く切り過ぎると後から出てくる側

花雷数が少なくなり、収量としては

少なくなってしまう。

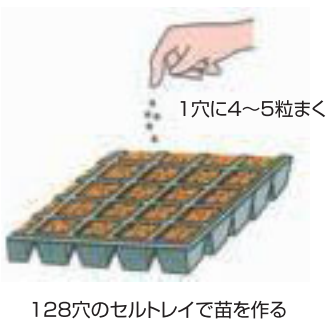
販売用としては、取り遅れないよ

うに注意が必要ですが、自家用なら

数輪ぐらい咲いても味はあまり変

わらないので気にすることはあり

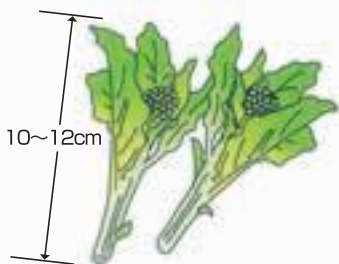
ません。



1穴に4〜5粒まく

128穴のセルトレイで苗を作る

育つにつれて間引き、  
本葉3枚のころ1本仕  
立てにする。畑に植え  
出すのは本葉4〜5枚  
のころ



つぼみが大きく膨らんだら収穫する。  
開花してからでは遅い